令和六年

大阪観世会定期能

第1回
6月8日（土）

杜　若 恋之舞　　大槻　文藏

鵺 白頭　　上野　朝義

第2回
12月14日（土）

葛　城 大和舞　　観世　清和

天　鼓 弄鼓之楽　　梅若　猶義

開演　午後1時（両日とも）
於　大槻能楽堂

一回券　一般　8,000円
　　学生　2,500円
一期券（二回券）　14,000円

○お問合せ・お申込

大阪市中央区上町A－7
TEL　06－6761－8055

大阪観世会

■演目のご案内

能《杜若　恋之舞》（かきつばた　こいのまい）

旅の僧（ワキ）が都から東国に赴く途次、三河に着くと沢辺に杜若が咲き乱れている。そこに里女（シテ）が現われ、これが有名な八つ橋の杜若だと言い、『伊勢物語』にみえる業平の行状と、業平が契った多くの女人のことを語り、僧を庵にいざなう〈物着〉。やがて里女は、自分は杜若の精だと言って、二条の后高子の御衣、業平が五節の舞で着けた冠姿で僧の前に現われ、業平は衆生済度の歌舞の菩薩の化現であると言い〈イロヘ〉、業平の八つ橋でのこと、業平が女人と契ったのは衆生済度の方便で、后との契りもその一例だったことを語り舞い〈舞グセ〉〈序ノ舞〉、草木国土悉皆成仏のとおり、自身も成仏できたと言って、夜明けとともに姿を消す。太鼓入り。作者は禅竹。「恋之舞」は18世紀の観世元章の創案で、観世だけの小書。この小書になると〈イロヘ〉から〈クセ〉までが抜け、杜若の精と業平の恋物語の趣となるが、杜若の精はクセで業平は実は菩薩だと語っているので（「衆生済度の我」は業平のこと）、本曲には当時の思想が描かれていることになる。

能《鵺　白頭》（ぬえ　しろがしら）

熊野参詣を終えた僧（ワキ）が摂津の蘆屋に至り、須崎の御堂に泊まると、仏道を求めながらも闇中に彷徨している男（前ジテ）が船でやってきて回向を乞う。船人は近衛院を悩まし頼政に射られた鵺の亡魂だと言う。男はそのときの顛末を語って〈居グセ〉、夜の海に帰ってゆく〈中入〉。里人（アイ）が頼政のことを語ると〈居語り〉、鵺の亡霊（後ジテ）が現われ回向に感謝する。鵺は落命後、うつお舟に入れられて淀川に流され、この蘆屋に流れ着いて、いまも闇路にさまよっていると言い、回向を乞うて海中に帰ってゆく。太鼓入り。『五音』によれば世阿弥作。鵺の側に立って、深い挫折を感じさせる能である。前ジテは上洛の途次だが蘆屋はそのコースから外れている。西国修行のためという喜多や金剛の設定が本来か。「白頭」は戦後に観世流の小書になったもので、装束が赤頭から白頭に変わる。

能《葛城　大和舞》（かづらき　やまとまい）

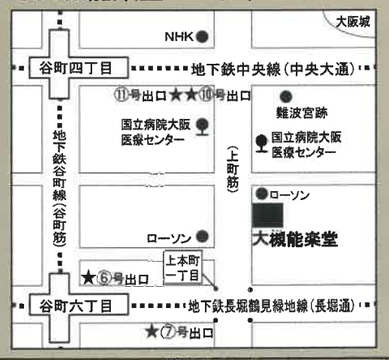
神代の古跡を尋ねて雪の葛城山を訪れた山伏一行（ワキ、ワキヅレ）が難渋していると、里女（前ジテ）から宿を提供される。女は摽を焚き、「摽結ふ…」の古歌をあげ、神代にはこの歌で大和舞が舞われたと言う〈舞グセ〉。女は葛城の神で、吉野山への岩橋の架橋を怠ったため役の行者によって苦を受けていると言い、祈祷を乞うて姿を消す〈中入〉。里人（アイ）が葛城の神について語ると〈居語リ〉、纏縛された姿の葛城の神（後ジテ）が現われて山伏の祈祷に感謝し、ここ葛城山が高天原だと言い、神代さながらに大和舞を舞い〈序ノ舞〉、暗い岩戸の内に消える。太鼓入り。作者は禅竹か。前ジテは里女姿に雪綿つきの笠、手に標、後は天冠に女神姿。元章の時代からの小書らしい「大和舞」になると、雪山の作り物が出て、〈序ノ舞〉が〈神楽〉に変わる。「大和舞」では葛城山の神々しさとシテの神性が強調される。

能《天鼓　弄鼓之楽》（てんこ　ろうこのがく）

後漢の帝（登場しない）が、天から降ってきた鼓を持つ少年天鼓を呂水に沈めたが、鼓は打っても鳴らないので、父親に打たせるべく、勅使（ワキ）が父王伯の家に行くと、王伯（前ジテ）はわが子との死別を嘆いている。召しに応じた王伯がわが子を失った心情を吐露して〈居グセ〉鼓を打つと、鼓は妙音を発したので、帝も親子の絆の深さに感じ入り、天鼓の菩提を管絃講で弔うことになり、王伯は勅使の従者（アイ）に伴われて帰宅する〈中入〉。従者が帝による管絃講を触れると〈立チシャベリ〉、天鼓の霊（後ジテ）が呂水から現われて報謝の舞を舞ううち〈楽〉、夜明けとなる。作者は禅竹か。後ジテは、黒頭、唐人姿。太鼓が入る「弄鼓之楽」の小書になると、いっそう報謝の趣が強くなる。本来は王伯は〈中入〉せず、後場にも行き、そこに天鼓の霊が現われる「護法型」だったらしい。

（天野文雄『能楽手帖』（角川ソフィア文庫）に小書など少し手を加えた）

●大槻能楽堂へのアクセス



会場アクセス
○地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車
　⑩号出口を出て南へ約300m
　（⑪号出口にエレベーター有り）又は
　谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車
　⑦号出口を出て北へ約350m
　（⑦号出口にエレベーター有り）
○市バス「国立病院大阪医療センター」下車
　南へすぐ
※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車
※「あべの橋」（天王寺）から62号系統
　「大阪駅前」行乗車

大阪観世会では、新型コロナウイルス感染対策として下記事項を実施致しております。
御理解と御協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。
・御来場の際はマスクの着用をお願い致します。
・体調不良または咳や発熱の症状があるお客様に対し、ご入場をお断りさせて頂く場合がございます。